



「ミス日本みどりの大使」とは

公益社団法人国土緑化推進機構Webサイト「みどりの大使」
(<https://www.green.or.jp/promotion/midorino-taishi/entry-1679.html>)

みどりの大使が行く!



2025
ミス日本
みどりの大使
佐塚 ころこ

こんにちは!

2025ミス日本みどりの大使の佐塚ころこです。先日、山梨県緑化推進機構にご協力いただいて山梨県の林業を視察しました。今回の視察の目的は林業の川上から川下まで一連の流れを意識して見学することで、林業の過程や工夫を知ることです。

想像以上に大変な苗木生産

視察した施設は4箇所、まずは苗木生産に力を入れている有限会社明見緑化様に伺いました。ここでは、植栽の前の段階である苗作りの大切さと大変さを学びました。種から苗木まで育てるには2年ほどかかり、やっと立派に成長した苗木でも一本たったの200円ほどにしかならない事が衝撃でした。さらに、種を植えても最終的に出荷できるのは80%程度で、天候の変動



にも大きく左右されるそうです。また、新たな手法に挑戦される際には苦戦することのお話も聞きました。初めてコンテナ苗の生育に挑戦された際は、最終的に出荷できた苗は種時きをしたうちの20%程度だったそうです。それでも2年間かけて育てた苗が出荷される時は満足感とやりがいを感じたとお話しされていて印象的でした。

最先端技術を導入したスマート林業

次に、地域材利用をはじめとするスマート林業に力を入れている有限会社天女山様に伺いました。スマート林業とは、ICTや最先端の機械を活用することで労力を削減して林業経営の安定化等を図る林業です。スマート林業の一環としてドローンを使った森林調査があり、実際に私も操縦をさせていただきました。ドローンを上空にあげ、レーザーで一気に周辺の木の高さや数まで細かく測量できることに驚きました。それまで必要だった体力や専門的な作業が必要なく、作業時間も80分の1で済



み、結果的に10分の1の人員費で測量ができるそうです。代々受け継がれる林業の良さを残しながら先進的な技術を取り入れてどんどん新しいことに挑戦し、時代に合わせ変革していく勇氣が新たな林業の時代をつくっていくのだと感じました。

伐採から加工までを手掛ける森林組合

3箇所目は南部町森林組合に伺いました。南部町森林組合は森林整備課、販売課、生産課と3つの組織に分かれており、それぞれが協力し合って組合として活動しています。特に印象的だったのは木の太さによって価値が変わることです。柱にしようとする必要が高い16〜18cmの木は価値が高く、逆に大きすぎたり



小さすぎたり形が歪んだりして使い道が限られてしまう丸太は価値が低くなるという事が衝撃でした。

丸太を身近なものに加工する工場

最後は地域材を利用して構造用合板を作っているキートック山梨工場に伺いました。お話の中で、私が現在通っている国際基督教大学の体育館には、この工場で作られたカラマツLVLが使われていると知り驚きました。丸太から合板になると一つの工場で行われている所が印象的でした。丸太が桂剥きにされ一瞬で薄い板になる工程は、思わず目を奪われました。この工程でどうしても出てきてしまう端材も、チップなどに有効活用しているという点に感銘を受けました。

4箇所施設を見学させていただき、林業の流れが理解できました。これからもたくさん森林と関わり合いながらさらに理解を深めていきたいです!

